

# さいたま市公民館運営審議会第3回会議 議事録

## 1 開催日時

令和4年5月27日（金） 午後2時00分から午後3時30分まで

## 2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

## 3 出席者

〈委員：8名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 加藤 美幸 副委員長
- ③ 浅野 博一 委員
- ④ 石田 玲子 委員
- ⑤ 大塚 晶子 委員
- ⑥ 加藤 恒 委員
- ⑦ 寺田 道子 委員
- ⑧ 山崎 栄慈 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- ① 北区 大砂土公民館長 岩井 由起子
- ② 大宮区 桜木公民館長 大嶋 真浪
- ③ 見沼区 大砂土東公民館長 青木 文彦
- ④ 中央区 鈴谷公民館長 井出 浩史
- ⑤ 桜区 田島公民館長 掛川 雅世
- ⑥ 南区 文蔵公民館長 石関 達
- ⑦ 緑区 大古里公民館長 春日 徹也
- ⑧ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 遠藤 明彦

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 中村 幸司
- ② 参事兼副館長 中村 和哉
- ③ 主幹兼事業・企画係長 野口 みずほ
- ④ 事業・企画係主査 曾根 啓佑
- ⑤ 事業・企画係主事 藤田 雄一郎
- ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 松本 みはる
- ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 伊藤 智子

#### 4 欠席者名

〈委員：4名〉

① 栗原 保 委員 ② 小林 玲子 委員 ③ 島田 正次 委員 ④ 丹 能成 委員

〈拠点公民館長：2名〉

① 内ヶ嶋 直哉 ② 星野 務

#### 5 議題等

- ・ 前回会議録について
- ・ ICT関連事業アンケートの様式について
- ・ 優良公民館表彰について
- ・ 公民館ビジョン実現に向けた取組について
- ・ デジタル八策の説明
- ・ スマホ講座の紹介
- ・ オンライン講座の紹介

#### 6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第3回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第3回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第3回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第2回会議議事録
- (5) さいたま市公民館事業アンケート
- (6) 第73回優良公民館表彰（報告）
- (7) さいたま市のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進とデジタルデバインド対策について
  - ・ スマホで初めてのインターネット教室アンケート結果集計
  - ・ 活動体験講座スケジュール

#### 7 公開・非公開の別

公開

#### 8 傍聴者の数

0名

#### 9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

## 10 審議内容

冒頭、人事異動による新任生涯学習総合センター館長、新任拠点館長、新任担当職員の紹介を行った。引き続き、事務局より前回会議録について、ICT関連事業アンケートの様式について、優良公民館表彰について、公民館ビジョン実現に向けた取組について説明を行った。

- ・議題「デジタル八策について」デジタル改革推進部より説明した。

山中委員長	八策に関わる公民館での例として、②「デジタルで支える新たなさいたま市民生活へ」⑦「デジタルで市民や世界とつながるさいたま市へ」を目指すということはよく理解できた。公民館の役割を考えた時、情報発信も大事だが、その先の社会教育としての取組部分が問われる。
寺田委員	これから公民館報や市報などこういった情報も発信していくということになるのか。紙を使わない形で発信していくということになるのか。
デジタル改革推進部 原口主査	将来的には、完全にデジタルに移行するのが理想的ではあるが、まだまだ苦手な方もいる。過渡期ということで、デジタル化を進めつつ、サポートも忘れずにやっていくというような形になる。

- ・スマホ講座の紹介と公民館との連携についての説明をデジタル改革推進部より行った

加藤（恒）委員	さいたま市で安心して使えるフリーWi-Fiのアクセスポイントを公共施設を中心に増やしていただきたい。デジタルデバイドを解消するためにいろいろな講座を開いて使えるようになって、自宅にWi-Fiの通信環境がない方もいる。利用しようと思っても、通信費がかかってしまい、ためらっている方もいるのではないかと。今、図書館をはじめ、さいたま市でフリーWi-Fi使える公共施設が41ヶ所あるが、身近な学びの場であり立ち寄りやすい公民館、区役所などにあるといいと思う。商業施設などでも使えるが、なりすましのアクセスポイントなどがあり、高齢者にとっては、公共施設で使えるということは安心感もあるのでご検討いただきたい。
山中委員長	現在地域のICTリーダーは130名いるが、今後もっと増やすということなのか。
デジタル改革推進部 原口主査	毎年地域ICTリーダー養成講座を開催しており、地域で活動する意向がある方はICTリーダーという形で登録し、毎年少しずつ増やしていく。DX推進は非常に重要と認識しているので、加速して増やしていかなければならないと感じている。

山中委員長	公民館や企業、総務省のプロジェクトもあり、スマホ講座がいろいろな形で開催されているが、内容的に重複があるのではないかと。
デジタル改革推進部 原口主査	若干差別化を図っている。
山中委員長	スマホ講座では、幅広いレベルをとりあげ、デジタルデバイドを、解消していく方向で動いているのか。
デジタル改革推進部 原口主査	スマホ講座のレベルのバランスを取りながら対応していきたい。
山中委員長	公民館として、デジタルデバイドの解消に向けて、市民の学習ニーズでもあるスマホ講座等に取り組む必要はあるが、e 公民館とは観点が違う。そこを整理しながら審議をしなければいけない。
加藤（美）副委員長	デジタルデバイス解消でスマホ講座をやると、ほぼ高齢者が参加となっている。デバイドを減らしていくのは大事だが、公民館でのデジタルトランスフォーメーションの推進としては、若者が、公民館を活用して学ぶというチャンスでもあると思う。DX の推進とデジタルデバイドの解消は両輪だと書いてあるので、そういう対策により公民館の新たな、事業も生まれるのではないかと。地域 ICT リーダーとしての活動ではパソコン講座やスマホ講座と限定されてしまうので、柔軟な対応もできるといいのではないかと。
デジタル改革推進部 原口主査	地域 ICT リーダーを使いパソコン講座だったものをスマホ切り換えは現実的などころ難しい。そういった、我々が手の届かないところを民間の力を借りながらなら、バランスよく市全体としてやっていけるといいと思っている。公民館と協力していけるといい。
山中委員長	公民館側として考えなくてはいけないことでもある。アンケートを、改めてご確認いただき、今後の審議につなげていければと思う。

・事務局よりオンライン講座の説明。（大古里公民館長、文蔵公民館長より e 公民館の報告）

石田委員	e 公民館を作成しているのは、職員なのか。その方は SNS とかを日頃から使用してる方なのか。 e 公民館の動画をいろいろ見たが、10 分か 15 分とても長いと感じた。Instagram のリール動画では最初の 3 秒が勝負と言われているが、冒頭の 3 秒を使ってしまいもったいない。推奨されるリール動画は、楽しめ見る人の心を掴む内容か、笑いや刺激となる驚きの要素があるかテキストフィルターやエフェクトなどのクリエイティブツール活用しているか。シェアをする形は横型じゃなくて縦型か。音声とかで見る人を引きつけて
------	--

	<p>いるか。何か新しいことに挑戦しているか等があげられる。e 公民館はそれぞれの地域の特徴を出しているか。動画を見ている方はプロとして見ているので、動画が不鮮明や言い間違いなど突き詰めて、正すべきでないか。あと文字が多く読めない。実際、写真や映像で 65%以上。あと文字とか 30%ぐらいに抑えるべきだと言われている。予算があるので、全部できるわけではないかもしれないが、e 公民館の動画を作るとすれば、やはり民間のプロに入ってもらい、評価してもらい、さいたま市がこれからデジタル化するのにどのぐらいのレベルを求めるか。興味のある方はリールプレイブックというものが、Face book から出ている。</p>
山中委員長	<p>オンラインは質が問われてくるところが難しい。コロナの感染初期ではおうち時間をどう充実させるかにニーズがあり、学びから市民の方が離れないようにオンライン化が進められてきた。2~3 年たつと、オンラインも感染症初期とまた違った観点で充実させなければならない。そうすると一定程度の動画の質を求められる。それにどう向き合うかが大事なポイントになるのではないかな。</p>
寺田委員	<p>ワードで作るチラシの動画や家庭の防災の動画はとてもわかりやすかった。特に防災の方はいろいろな方に見ていただければいいと思う。視聴回数が、講座によってまちまちで、e 公民館をもっといろんな人に見ていただけるよう、PRを工夫していったらいいのではないかな。</p>
大塚委員	<p>同じような意見で、会社の宣伝のため企業と話す機会があり今からの時代は動画だと言われ、最初の 3 秒と言われた。そこまで公民館でやっていくのは難しいとも感じる。最初の頃よりは、講座の数も増え、それぞれの項目ごとに、分類があり、見てみたいと思う講座がたくさんあった。ただ、残念なことに、動画や情報を見に行くまでの手間がとてもかかってしまう。e 公民館を検索してもどこを押せば動画に行くのかわかりにくい。とくに青文字でリンクが貼っている状態だと、見つけにくい。動画なのか、紙ベースのデータなのかの区別がつかない。講座を見終わって、もう一度戻するのに手間がかかるので、次を見てもらえるチャンスを消してしまっているのではないかな。</p>
山中委員長	<p>確かに操作をわかりやすくする工夫は必要ではないかな。</p>
浅野委員	<p>動画を見てみた中で、子供に伝わるコミュニケーション術思春期編は大変すばらしく、本校の保護者にも見ていただきたい講座の内容だった。実際、学校でも、保護者を育てるものができたらなと日々感じている。学校でできることは、子育て講座ということで直接、保護者に語りかけることや懇談会のテレビ放送で語りかけること、公民館で、こういった講座ができ、保護者が子育てのことを学べることは、さいたま市全体でも財産になるのではないかと感じた。</p>

	公民館で、こういった講座を今後も企画していただけたら大変ありがたい。もう一つは、障害者福祉施設のみどり園作品展が素晴らしいと感じた。本学校現場で考えると例えば子供の作品展をいろいろ展示するのが現状で、親が自由に参観できない。オンラインを使う手法はすばらしく学校でも生かせると思った。海外の学校や他の自治体の学校との交流も ICT を使い手軽にできる時代が来ているので、公民館でも世界や他の地域と繋がる取り組みができれば、魅力的な学びの場ができるのではないかな。
山崎委員	戻ってしまうが、地域 ICT リーダーについて、リーダーに必要なスキルはあるのか、誰でもなれるのか、お聞きしたい。
デジタル改革推進部 原口主査	地域の ICT 養成講座というものを受講していただいている。そのあと、地域で活動する意向がある方に登録していただいている。実際、それぞれのレベルにはばらつきがあるが、何か資格が必要とか、前提条件はない。
山崎委員	子供たちが今タブレットを学校で使うようになってきた。PTAも ICT 化を進めなければならない。そういう観点から保護者たちに声をかけ ICT リーダーになってもらうことができればと思った。
山中委員長	確かにアンケートで高齢者の方のご意見が目立つが、親世代や実際 Z 世代の子、若者たちとかを対象にした事業の構想を練るというのも大事なのではないかな。

・事務局より市民大学のハイブリット形式について説明

浅野委員	本当にいろいろな可能性が出てきている。学校現場も授業参観を 360 度で撮れるカメラを使い、限定配信を行っている。コロナの影響やいろいろな事情から学校行事に参加できない家族も Zoom を使い参加でき嬉しかったと意見をいただいた。通信環境が整うといろいろなことができるのだと感じた。今の市民大学もいろいろな可能性があるのではと思う。
加藤（美）副委員長	市民大学はいろいろ工夫していると思う。音声についてはスピーカーフォンを使うことで改善するのではないかな。さいたま市は、他と比べて、GIGA スクールが始まり、1人1台タブレットを活用しているという話があった。ぜひ学校教育外でもタブレットが活用できることを紹介していただくとデジタル化が進むのではないかな。朝霞市の子ども大学では Zoom を使ったプログラムで、遠くシンガポールと繋がり、デジタル修学旅行を行い子供たちに好評だった。公民館でもそういったこともできるのではないかな。

<p>山中委員長</p>	<p>今のハイブリッド講座は対面とライブ配信とオンデマンドということだが、内容によってはオンデマンドで完結できるもの、できないものもある。内容的に整理して、形を選んでいくことは大事だと思う。</p> <p>e 公民館では公民館側の努力が伝わってきたが、内容的に実際体験しなくてはわからないもの、説明を聞けば済むものもあった。オンラインで完結するしない、もしくは一応完結を見たとしても、対面まで誘導したいものもあるのではないか。そのあたりを整理しながら、e 公民館含めハイブリッドの方式も検討できると良いのではないかと。利用者の事情（年齢や障害などの身体的理由）を踏まえることは、障害のある人の生涯学習の答申にも関わるので、ハイブリッド事業は重要だと思う。目指す内容によって何の手法が適しているのかを検討する段階に入っているのではないかと。そのあたりを今後考えていきたい。</p>
<p>加藤（恒）委員</p>	<p>e 公民館の中に利用者同士の繋がりづくりという視点、コンテンツを見て学習した人たちが、次に公民館でつながれる場を準備して欲しい。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>やはり e 公民館は積極的にアピールする。そのアピールも、オンライン上だけでなく従来の形も含めいろいろなチャンネルで行う。オンライン検索はより操作しやすいようにする。高齢者だけでなく広く世代を広げる、また、地域をもつなぐような取組にチャレンジしてみるのもいいのではないかとという意見もでた。市民の学びという点は、オンラインだからできることもあるが難しい。DXの答申ではあるが、色々なやり方を模索していくということが重要ではないか。社会教育の情報提供も大事だが、その先の学びは公民館の使命なので、そのことを踏まえた上でどう ICT を活用していくか、今後さらに深めていければと思う。</p>

## 11 その他

次回（第4回）会議は、令和4年7月26日（火）午前10時から、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールにて開催予定であることを確認した。

## 12 閉会